

5月17日(土)、諏訪市文化センターにおいて諏訪教育会定期総集会在行われました。あいにくの雨の日の開催となりましたが、各会場で楽しそうに、そして真剣に研修に取り組む会員の姿が見られました。今回の教育会だよりでは、会長挨拶の抜粋と、8つの委員会が主催した各講座の様子を紹介します。



令和7年度 諏訪教育会定期総集会 牛山会長挨拶<抜粋>

風薫る5月となりました。おかげ様で明治15年設立の「諏訪教育会」も、今年度は、143年目を迎えました。

今年度の諏訪教育会テーマは、昨年度に引き続き、「より深め、より開き、より据える～前へ 私たちの未来に繋げて～」とさせていただきます。昨年度は、櫻井洋前会長の下、教職員バスケットボール大会の11月開催、定期総集会の分散型研修の復活、「諏訪の子どもや教育を語る会」や「教研集会」の平日開催を実現しました。受け継がれてきた流れをさらに進め、今年度も「前へ」進みます。内容のさらなる充実を図る会誌「諏訪教育」の年1回の発刊、児童生徒文集「みずうみ」「やまなみ」の合本、教育研究集会の夏休み中の開催、研究調査委員会で複数の委員会において活動内容に応じた委員数削減、さらに、委員会の再編についての検討と進めてまいります。

「教育会とは何か」、会員のみなさんはどうお考えでしょうか？様々な考えがあっていると思います。私は、「教育会とは私たち教職員の、根元の部分を支える、大地のようなものだ」と思っています。

私たちが目指していきたい教育実践は、定型化され、効率の良さを求めたものではなく、子どもたちの活動に根差し、表情の変化を見取りながら、もっと自由に構築されていくものであると思います。それを支える自主的な研修…多くの仲間と繋がりながら、授業について対話し、アイデアを実践につなげていく…教師にとっては至福の時だと思います。そんな研修の機会が得られ、私たちの実践力を鍛えていける、求める教師に応える場が「教育会」にあると思うのです。

今年度は、公益化から13年目です。コロナの時代はすでに過去になりつつありますが、そのコロナの時代を経て、私たちは外に開くことの尊さや、多くの仲間とつながることの喜びを身をもって感じました。この体験を忘れずに、「前へ」進みましょう。サブテーマにある「私たちの未来」とは「社会一般の方々、子ども達、そして私たち自身の未来」です。公益法人であることへの自負と誇りを胸に、自由と自主を大切にして協働的に私たちの未来へ向かって、「前へ」進めたらと願っています。

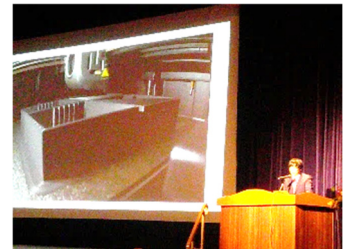
さて、本日は、会員の皆様から要望の高かった「参加型」の研修です。本日の研修講座を計画していただいた、8つの委員会の先生方、そして音楽発表をしてくださる「諏訪教育会合唱団」の先生方に心よりお礼申し上げます。本日は諏訪教育会らしく、仲間とかかわり合いながら学ぶ研修を大いに楽しみましょう！

令和7年5月17日 諏訪教育会会長 牛山 高彦(岡谷北部中学校)

各研修講座の様子から

<家庭・技術家庭委員会>『つくる』って面白い！デジタルファブ×授業のリアル (大ホール)

「レーザー加工技術」「デジタル刺繍」そしてそれらを取り入れた授業実践の紹介があり、自分たちとは違う世界だと思っていた最新の技術が、案外身近に手にできるところにあることがわかり、「ものづくりの諏訪」を感じることができました。世の中が日々新たな技術に更新されていく中で、私たち教員も日々更新していくことの大切さを感じられる発表で、「最新の技術を取り入れて、教育の向上を目指していく先生方の熱意を感じました。自分の専門分野でも活かしていきたいと思いました。」との感想が聞かれました。



<教育博物館委員会>「なるほど 教育博物館」 (大ホール)

諏訪教育会館に隣接する諏訪教育博物館の紹介、博物館内の展示物、子ども達の作品展に訪れる親子の姿など、博物館のもつ様々な表情が紹介されました。また、これまでの博物館主催のワークショップでの取り組みが写真とともに映し出されると、会場から当時を思い出す方の反応が見られました。ある会員は、「子どもの作品を通して家族との時間が作り出されたり、先生方の視点からまとめられた諏訪の歴史・自然に触れられたり、またそれらを発信している諏訪教育博物館のもつ意義は大きいものがあると感じた」と話していました。



<体育・保健体育委員会>「本物のダンス（ヒップホップダンス）にチャレンジ！」
～プロのダンスの先生から、「運動会の表現運動」「ダンス授業につながるダンスや指導法を教えてください～

プロのダンサーの方を講師に、実際に体を動かしながらダンスの指導法を学びました。動きのポイントを言語化し、スモールステップで少しずつ動きを加えていくことで、参加した先生方の動きがみるみる変わっていききました。基本的な動きを学んでいく中で、最初は硬かった表情や動きも、研修が進むにつれて笑顔が増え、動きもどんどん滑らかになっていききました。



<図工・美術委員会>「造形遊び素材を使ってみよう」

スポンジ、アートカード、網、積み木など、様々な素材を使った造形遊びを体験しました。素材は、教育会館で借りられるもの、100円ショップで手に入れられるものだったので、普段の授業でも活用できるものばかりでした。また全ての造形遊びを体験できるよう計画されていました。素材と向き合い造形遊びに取り組む中で、授業につながるヒントをつかむことができた研修講座でした。



<英語委員会>「英語教育の小中連携について」

英語委員会研修のポイントは「教科等横断的な学び」でした。英語委員が所属する小学校英語各週の模擬的な授業を通して研修を重ねていきました。中でも、「ローマ字」表記の違いについては、国語科の「ローマ字」の中で、都道府県名を漢字・ローマ字の両方で表記させるといった社会科の学習と関連させるなど、教科等横断的な学びの実践を基に研修を深めていきました。

頻度を表す形容詞の中でも、“always” “usually” の違いは感覚的なものもあり、それらをどのように理解させていくのか、それぞれの実践を基に話し合う様子が見られ充実した研修となりました。



<道徳委員会>「道徳の授業作り」

道徳委員会のポイントは、改めて「学習指導要領解説から教材研究に取り組もう」でした。道徳の授業で教材として取り上げられることの多い3つの教材を基に、グループワークに取り組みました。研修のポイントは道徳的な見方・考え方を実際の教材に反映させて、具体的にどのように授業を考えていくのか。学習指導要領解説を根拠に、自身の実践やこれまでの経験から意見交流を通して改めて「道徳」について考えを深めていきました。

教材「泣いた赤鬼」については、「青鬼の気持ちに寄せながら、友との良い関係を子どもたちに考えさせてみました」と自身の実践をもとに意見交流をするなど、主体的に取り組む先生方の様子が多く見られました。



<幼年教育委員会>「子どもと楽しむ工作遊び」

～みんなで紙飛行機を作って飛ばしてみよう～

幼年教育委員会で準備して下さった作り方の図をよく見て、いろいろなパターンの紙飛行機を作ってみました。より遠くに飛ばしたい、滞空時間をより長くしたい、のどちらかを狙って紙飛行機を折り、試しに飛ばしてみても修正を加えていきました。遠くに飛ばすのを見て「すごい」と歓声が上がったり、また一方で、思い通りに飛ばなくても笑顔になったりと、楽しむ会員の表情があちこちで見られました。参加された方は「たくさんの折り方があることを知りました。素材や折り方で飛び方が変わるなど紙飛行機づくりの奥深さを感じました。」と話されていました。



<国語委員会>「書写に親しもう」

担当している学年ごとに集まり、それぞれの学年の題材を実際に書いてみて、指導のポイントや難しさについて意見交換していました。教科書をめくりながら題材の難しさについて話したり、毛筆の指導が硬筆に生かされるよう工夫していることを伝えあったり、さらに別のグループでは力を抜くコツについて教えあったりする姿が見られました。「自分が1時間集中して書く経験はなかなかとれないので、子どもの気持ちになれて、よい時間になった。」という会員の声がありました。



研修講座を企画・運営して下さった委員会の皆様、諏訪教育会合唱団の皆様、総集會を様々なところで支えて下さった社員の皆様、各係の皆様、本当にありがとうございました。